市民と市長との対話集会（テーマ：幼児期の切れ目のない子育て支援）
主な意見交換の内容

開催日：令和5年10月27日（金）
会　場：市民プラザ　2階　第3会議室
参加者：20人

（参加者）
・子育てとは直接関係ないが、上越市からの郵送物は多すぎる。メールで十分である。また、本日の資料だが、人口推移から出生数という流れになっているが、見方によっては女性に出産を迫っているように取れる。人口増のために他にも対策をしているということも加えた上で出生数の話に入ってほしい。
・3か月健診で配布している子育て支援をまとめた「上越市子どもファイル」の内容について、離乳食のスタート時期など、全部「こうしてください」と書いてあって、お母さんに選択肢がない。子どもの成長には個人差があり、その通りにしないとしんどくなる。「何故そうなのか」を中心とした書き方にし、それを見て自分の子どもに合わせて考えられる内容に改善してほしい。
・保健師からの指導が逆に負担になっていて、悩んでしまうという母親の声を聞いている。保健師には、マニュアルではなく赤ちゃん自身をみてもらいたい。母親の考えを尊重し励ましてもらいたい。
・市長と対話できる場を設けていただき、ありがたい。

（市長）
・市ではDX改革も進めており、できるだけ紙で出さないようにしている。
・市民目線で市政をやっていかなければいけないと思っている。
・相手の立場に立って考えられるよう、保健師の専門性も高めながら、資料については改善できるようにしたい。

（参加者）
・収入が不安定なので、税金等の支払いが遅れることを相談する窓口や、それを紹介するパンフレットがあるとよい。
※市内在住外国人の意見

（市長）
・在住外国人が多い地域の総合事務所に行ったら、少なくとも英語は通じて、そのほかの言語にも対応できる体制は作っていかなければいけないと考えている。

・将来的には、生活の様々な場面で、在住外国人の皆さんが暮らしやすい対応を取っていきたい。

（参加者）
・保育園無償化というが、0 歳から 3 歳まではまだ無償化になっておらず、切れ目となっているので、切れ目のない支援をしてほしい。
・子育て全国一に向け、兵庫県明石市等と比較して、どのような目に見える形の支援を検討しているのか知りたい。
・20 代、30 代は行政とつながっていない世代だと思うので、若い世代が参加しやすい、若者向けの会も開いてほしい。

（市長）
・子育て支援としては、例えば、ひとり親世帯に対する支援は必要だと思うし、そうでない世帯でも何かあった時に支援できる体制は整えなければならない。その他にも、男性が育児休暇を取りやすいなど子育てしやすい環境をつくる努力も必要と考える。
・上越市は中山間地域が 7 割を占め、昔からのコミュニティが強みだと思う。地域が子どもを支え育てている上越市は、おそらく他の市よりも環境がいいと思う。
・若者は社会や政治に関心を持たなくても生活に困らない状況もあるかと思う。若い人の参画を促す努力はしていきたい。

（参加者）
・人的支援よりも、まずは経済的支援。本腰を入れて具体的な支援を考えてもらいたい。
・若い子たちは、若い人たちなりに上越市をこうしたいという思いを持っている。市でそうした声を拾う場づくりをしてほしい。
・市の施策の情報が若者に届いておらず、支援も届いていない。デジタル化に力を入れてほしい。

（参加者）
・20 代、30 代の人も意見があるなら、自ら動いて言ったらいいと思う。今の日本の若者は受け身になりすぎている。ネットニュースですら自分の興味のあるものしか見ない。そういう若者を作ってしまった大人にも責任があり、それも問題だと思っている。

（市長）
・さまざまな情報の中で何が正しいのかを判断する知識も大切になってくる。
・若い人達にも色々な対話をしてもらいたいし、もっと若い人達で議論する場があると、子育て支援の中身もよくなっていくと思う。

（参加者）

・今ある支援は、親が主語になっているが、子どもが主体になる視点が大事だと思っている。親の子育てのしやすさよりも、一番大事なのは、自分らしく生きられる選択肢を持って、子ども自身が自分で決めて、自分で行動ができ、それをいかに大人が支えていくかという視点だと思う。この視点について、今の現状や市長の考えを聞きたい。

（市長）

・何よりも子どもたちは自分がやりたいことを徹底的にやっていくことが一番大切だと思う。

・今の教育は枠にはめられ過ぎているという思いがあり、その枠を打ち破るような教育を地方独自の特性を生かした中でやっていくため、時間はかかると思うが、特例校や小規模特認校を、今、教育委員会と協力をしながら、できるように努力しているところである。

（参加者）

・学校だけでなく、子どもの人権もキーワードだと思っており、子ども達に、一人一人が幸せに生きる権利を持っていることを伝える「包括的性教育」を上越市も取り入れてもらいたい。

・保健師の仕事は幅が広くて負担も大きく、母子保健に関われるマンパワーや予算にも限りがあると思う。行政だけではやり切れない。

・現状として、日頃の悩みを相談できる受け皿が不足していると思う。地域人材と行政とが一緒になって、みんなでこの地域を良くしていくという動きができたら、もっと良くなっていくと思う。その辺りの支援をお願いしたい。

（市長）

・いろいろな人がいて、多様性があって、これが正しいと決めつけることはできないと思う。

・いただいた意見は、これからの改善に向け、プラスに変えていく要素なので、政策に確実に生きてくると思う。

・母子保健についても、できるだけ充実するように私たちも努力していく。

（参加者）

・子育ては妊娠から始まると思われていて、妊娠から出産までの間の施策が何も出ていないのが気になる。自身は切迫早産で 3 か月入院したが、受けられる支援が何もなかった。

・産前産後ヘルパーは生後 16 週までしか使えないが、そこからが大変なので、範囲を広

げてほしい。
・育休手当が 2/3 や 1/2 しかなかったり、保育料が相当な負担となっている。経済的にもっと補助があると、第 2 子、第 3 子の出産につながってくると思う。
・「伴走型相談支援」が、名前から内容が分かりにくい。もう少し分かりやすい表記にして、いつでもどこでも相談ができて、一緒に悩みについて考えてくれるような相談支援になって欲しい。

（参加者）
・自身の第 2 子は、切迫早産で生まれて小さかったが、定期健診で他の子と比べられ、嫌な思いをした。また、相談窓口がなく、相談にも乗ってもらえなかった。
・色々な子がいるので、それぞれの子どもに寄り添った母子手帳にしてほしい。
・健診に楽しく行きたかったし、他の人に同じ思いを味わって欲しくない。

（市長）
・例えば、子どもの育ちは百人百様だと聞いており、様々な子どもに対応できるような体制をできるだけ整えていきたい。
・小さい子に対してもしっかり対応できる政策や、妊娠前に受けられる支援についても検討したい。

（参加者）
・市の保健師は、母子保健を含め幅広い業務を担当していて、非常に負担が大きい。そこをフォローしたいと思っている NPO や活動している市民がたくさんいるので、もっと繋がればといいと思う。
・今、自分の所属する団体では、産前産後の困っている人をサポートする独自の活動を始めている。
・つわりが辛く、子どもを見ながら自宅安静している人から、「誰にも相談できない、どこに問い合わせたらいいか分からない」といった問合せが団体にあった。市に相談するか、民間に相談するかはハードルの高さが違うと思うので、そこをうまく補完しながらやっていけたら、もっと声を拾いやすくなるのではないかと思う。

（参加者）
・今日の参加者の話を聞いて、欲しい人にその人に合った情報が届いていないところが一番の課題だと思った。
・その人に合った、情報の伝え方、広報の仕方というところを、画一的なものではなく工夫をしてもらえると良いと感じた。

（市長）
・市の制度が 100％対応できているわけではないが、すこやかなくらし包括支援センターが、子どもから高齢者まで相談できる窓口となっているので、専門的な相談が必要であれば、相談してもらいたい。ファミリーサポートセンターもある。
・不足している部分があれば、また、次のことを考えていきたい。

（参加者）
・ファミリーサポートセンター事業はお子さんへの支援はできるが親の支援ができない、産前産後ヘルパーは親への支援はできるが家族への支援ができない、というところに使いにくさを感じている方が多いと思う。

（参加者）
・行政に繋がってない世代や、コミュニティに入っていない状態での子育ての難しさについて意見があったが、川崎市にある「子ども夢パーク」のような、誰でもアクセスできて、コンシェルジュから情報を得られる包括的な場ができれば、いろいろな人が過ごしやすくなるのではないかと思う。
・上越市ではいち早く「子どもの権利に関する条例」が作られたが、ずっと見直しが図られていない。
・教員をしているが、教育現場の実態として、ルール最優先で子どもたちの意見を聞く場はほとんどない。
・市として、学校を介さずに子どもの権利を守っていくような施策を打っていくイメージは持っているか。

（市長）
・教育現場の改革となると様々な調整が必要となってくる。できれば、ご自身から現場でできることをやっていただき、「こうしたら子どもたちの意見が聞けますよ」という事例を作ってもらった方が、参考になる。いろいろなところで、できる人ができることをチャレンジしていくことが、改革には必要だと思っている。
・誰でも相談できる場所としては、市民プラザやオーレンプラザのこどもセンター、すこやかなくらし包括支援センターがあるので、そちらに相談してもらいたい。

（参加者）
・学校から距離を置きたい保護者も大勢いる現状を考えると、学校側のチャンネルも必要だが、市からのチャンネルもあっていいと思うので、期待したい。

（参加者）

・上越市は、産前産後直後でなく、4ヶ月、6ヶ月になってからの支援は充実しているが、偏りを感じる。

・産前産後直後は、母親の精神的な負荷がすごくかかる時期。今、全国的に産後ケアのショートステイなどの利用が増えてきている。

・9月から助産院開設のために動き始めていて、医療施設とこれから交渉を始める段階に来ている。

・上越市はプライベート出産が多く、その解決のためにも、また、子育て支援のバランスを取っていくためにも、ぜひ助産院設立の後方支援をお願いしたい。

（市長）

・助産院があれば、いろいろな選択肢の中で出産できるのだと思う。お話の中にあった「産後宿泊型」にも注目していきたい。

（参加者）

・上越助産師会を是非とも頼ってほしい。

（市長）

・今日皆さんからお聞きしたことについては、できるだけ政策に繋げていきたいと思う。